

岩村の歴史(一)

テレビジョン開発の父、山本忠興博士

現代の人々の生活にとって無くてはならないものにテレビがある。近々テレビ放送が、アナログから地上デジタルに変更されることにより、今までのテレビは完全にその用をなさなくなり、地上デジタルに対応するものに買い換えなくてはならなくなった。本来テレビは、被写体の映像を電気信号に変換し、電波・ケーブル等で送り、それを受けた受像機のブラウン管で映像を映し出すシステムであった。

テレビジョンの研究は、一九二六年(昭和元年)イギリスやアメリカで実験公開されたのが初めてとされ、日本では一九二八年(昭和三年)実験が成功し一九三九年には試験放送もされたといわれるが、金地出身の山本忠興博士がテレビジョンの研究開発の権威とされ、日本におけるテレビジョンの父とも言っても過言ではないであろう。博士は、一八八一年(明治十四年)

金地の山本修二郎氏の次男として生まれ、後に、金地の山本忠秀氏の養子となる。

山本忠秀氏は、一八六二年(文久二年)金地に生まれ、政治家として県議会議員・貴族院議員等を歴任し、また、土佐電灯株式会社社長をはじめ、土佐農工銀行頭取、高知銀行取締役、土佐貯蓄銀行取締役等実業界で活躍した。一方城東商業学校理事、長、土佐高等女学校理事など、育英事業にも力を尽くした。一九三六年(昭和十一年)に七五



昭和47年2月 山本道雄建之

歳で没した。

忠興氏は県立一中(現追手前高)、一高をへて一九〇二年(明治三十五年)東京帝国大学(現東大)電気工学部に入學、卒業後芝浦製作所に入所したが、その後早稲田大学電気工学科教授となった。この間アメリカにも留学、電気機械設計の研究に打ち込み、一九一七年(大正六年)工学博士となる。わが国における電気工学、テレビジョンの権威といわれるようになった。發明で特許を得たもの、日本で四三件、スイスで六件、イギリスで二五件などがある。

また、変わったところでは、スポーツ振興にも貢献し、学生陸連会長を務め、また一九二八年(昭和三年)アムステルダムで開かれた第九回オリンピック大会には総監督として参加している。

一九五一年(昭和二六年)六九歳で他界された。岩村の生んだ誇るべき偉人、いや、南国の、日本の偉人といえる山本忠興博士である。南国市岩村の金地の地にその生家の跡が残されている。 藤本眞事さん寄稿

子供の病気に要注意

八月、九月は病気は少なく、昔から柿が黄色くなる頃には医者青くなると言われていました。その一方で、冬のインフルエンザの流行時には百人を超える患者さんが押し寄せ、小児科医にとっても肉体的にきつい時期です。

感染症の胃腸炎(嘔吐下痢症)は一年中見られますが、冬から春先にかけて特に多く、原因は殆どがウイルス感染です。春先に流行する胃腸炎の原因はロタウイルスが多く、発熱を伴い便の色が白くなるのが特徴です。脱水になりやすく入院が必要になる事も稀ではありません。

夏になると病原性大腸菌、サルモネラ、キャンピロバクター等の細菌によるものが多くなります。細菌性腸炎の場合は便に血液や粘液が含まれることが多く、便性を観察する事が重要です。まだまだ、厳しい寒さが続きます。健康には充分気をつけてこの冬を乗りきって下さい。 あげぼの小児科クリニック院長 石本浩市先生寄稿